



令和5年度 東京都立墨田特別支援学校経営報告

校長 朝日 滋也

I はじめに

生きる力、働く力を育てる学校

本校は、児童・生徒が生活している地域で適切な支援を受け、個別最適な学びと保護者・地域との心の通った連携の充実により、「生きる力、働く力」を身に付け、生涯にわたりその力を発揮できるようにすることを教育の理念としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類扱いに変わってから、徐々に教育活動を再開させる中で、仮設校舎建築工事により、外部の体育施設等を借りながら、教育活動の充実に努めた。

今年度の取組については、①児童・生徒、保護者、教職員による学校評価アンケート、②学校運営連絡協議会における協議によって評価を受けた。今年度の成果と課題を考察し、以下のとおり報告する。

◎ 今年度の重点とする事項を、次のとおりとした。

- 1 児童・生徒が大切にされ、安全に、安心して学校生活を送ることができるようにする。
- 2 育成すべき資質・能力を確実に身に付けられるよう、日々の授業と研究を充実させる。
- 3 教育課題に真摯に向き合い、その取り組みを保護者、地域に積極的に発信する。
- 4 仮設校舎及び新校への円滑な移転、移転後の教育内容の検討を具体的に推進する。

II 本年度の主な教育活動、取組の概要

- 1 感染症対策を施しつつ、5月以降段階的に教育活動をコロナ禍前に再開。プールの水質管理に苦慮したが、水泳指導は、全学部で再開
- 2 グラウンド内に仮設校舎建築のため、高等部体育祭は墨田区総合運動場で、小中運動会は墨田区総合体育会で開催。他、旧向島中学校、八広野球場等を借用しての体育活動
- 3 校外学習、職場見学、校内実習、職場実習等を計画的に実施。進路講演会に加え、進路個別相談を実施。
- 4 オンラインも併用しつつ対面の学校間交流、副籍交流実施。都立墨田川高校と部活動交流
- 5 外部専門家の助言による教育内容の充実に推進。今年度からスクールソーシャルワーカーを迎え、種々の問題に悩む児童・生徒、保護者への支援を組織的に推進
- 6 学習指導要領が示す育成すべき資質・能力を追究し、小中高合同で構成した教科等のグループで研究活動を進め、1月に校内で研究成果を発表。外部講師から示唆を受ける。
- 7 新校分離を見据え、教育課程の改善を検討。中高等部における社会、理科、職業・家庭等の導入を段階的にすすめることとし、週時程も改善。
- 8 教育庁から「学習者用デジタル教材開発研究校」の指定を受け、教科書のデジタル化の検討に参画。ICT通信の発行により保護者にも発信
- 9 年度末に仮設校舎完成。仮設校舎移転プロジェクトにより準備を計画的に進めた。
- 10 小学部18名、中学部22名、高等部12名の卒業生を送り出し、進路先、支援継続先へ。

Ⅲ 今年度の取組目標等に対する自己評価

【学校運営】

- ・ 児童・生徒の人権を最大限尊重する学校づくりを目指したが、児童・生徒の呼び方、適切な対応の仕方、配慮すべき事項については、未だ課題がある。子供の権利を守り、子供を大切に真に向き合う姿勢を、今一度全教職員で確認し、人権が大切にされる実感がある学校に変わっていかなければならない。
- ・ 法令を遵守し、保護者や都民の信頼に応え、使命を全うする教師として取組みを一層強化する必要がある。
- ・ コロナ禍以降の教育活動の再開、仮設校舎建築工事に伴う教育活動の工夫等については、主幹教諭、主任教諭等のライン組織、経営企画室と教員との協働により、業務を推進した。
- ・ 4年後の新校分離を見据え、教育課程の改善、週時程の見直し等を進めることができた。
- ・ 仮設校舎は無事に完成したが、保護者への情報提供は積極的にすべきであった。今後にかかして行く。

記号：◎ = 目標以上に達成 ○ = おおむね目標に達成 ▼ = 未達成・要改善

【学校運営】	数値目標	達成状況と評価
① 教職員全員が、常に人権感覚を磨き、児童・生徒の人権を尊重し、体罰、ハラスメント、行き過ぎた指導がない教育が年間を通じて行う。	教員の学校評価において「そう思う」100%	「そう思う」は77% 「やや思う」を入れて98% ▼
② 公立学校の教職員として、保有個人情報の保護、守秘義務を厳守するとともに、自らサービスの厳正と健康の保持・増進に努め、サービス規律を遵守する。	サービス事故0 ヒヤリハットの再発防止策策定全件	事故・ヒヤリハット有再発防止策の徹底が必要 ▼
③ 主幹教諭会は、本校の課題の分析や、本校が今後担うべき役割について情報を収集し、校長に提言を行う。	週1回の実施	計画通り実施 ○
④ 企画調整会議は、学校の諸活動、諸課題について積極的に企画・提案を行い、学部運営、学部会、分掌部会、学年会等を通して全教職員に周知する。	週1回の実施	計画通り実施 ○
⑤ 主幹教諭は、主任教諭の組織的な対応力を高めるため、主任教諭会を企画・運営する。主任教諭は自己の役割を意識し、学校運営に貢献する。	年3回の実施	計画通り実施 ○
⑥ 教職員一人一人が、自己の担当職務を全うし、遂行に当たっては、真に児童・生徒に有益であることを軸として、時代の流れに対応する改革意識をもち、学校運営に主体的に、組織的に参画する。	学部運営、学年会週1回／学部会、分掌部会月1回	計画通り実施 ○
⑦ 校内研究と各学部の教育課程の見直しを関連付け、4年後の分離・開校を目指した教育課程の開発を行う。	年度末までに、教育内容に踏み込んだ教育課程の改善	分離開校を見据えた教育課程を改善 ◎ 次年度から段階的移行
⑧ 仮設新校移転プロジェクトにより、(ア)仮設校舎への移転の実行計画、(イ)新校建築準備、(ウ)高等部単独校化の検討を進め、保護者に発信する。	保護者アンケート周知満足度 90%以上	移行準備をすすめ年度末の移行は実現。保護者満足度は69% ▼
⑨ 本校の読書活動推進計画に基づき、図書コーナーの改善・活用を検討し、図書館管理システムの導入を図る。	年度末までに図書コーナーのリニューアル	図書を設置し、管理システムを導入 ○
⑩ 予算調整会議による適切な予算計画のもと、教員と経営企画室担当とが連携し、円滑な予算執行を進める。	公費予算執行率 95%以上	公費予算執行率 96.6% ○

【学習指導】

- ・ 改訂学習指導要領の全面実施を踏まえ、教育内容を着実に実施する教育を推進するため、研究活動、日々の授業におけるICT活用、研究指定を受けたデジタル教材開発等に取り組んだ。
- ・ しかしながら、ICT活用に対する保護者の満足度は前年度より9ポイント上昇したものの70%であった。
- ・ 「道徳教育」「安全教育」「食育」「性教育」等の教育課題については、学校として組織的に取り組む必要がある。

【学習指導】	数値目標	達成状況と評価
① 児童・生徒の実態把握をもとに、学習環境の整備やICT機器等デジタル技術の活用、視覚・聴覚等を効果的に活用した工夫した指導を行う。	授業改善：通年 保護者満足度 95%以上	ICT活用の授業を推進。保護者満足度 9ポイント増だが70% ▼
② 育成すべき三つの柱と主体的・対話的で深い学びの視点を重視し、生活年齢を考慮するとともに生活に生かすことを意識した授業を計画・実施する。	一人1回以上の研究授業	ほぼ全員実施 ○
③ 小・中・高の学びの連続性を考慮した教科等の研究を推進し、教科ごとの年間指導計画の見直し・改善を図る。	校内研究のグループ発表 年間指導計画の改善	1月に校内研究発表 次年度も継続 ○
④ 児童・生徒の障害特性に応じた、各自の研究テーマに基づく教材教具を開発する。	1人3点以上の開発 10月以降の共有開始	計画通り実施 ○
⑤ 「学習者用デジタル教材開発の研究指定」による文部科学省著作教科書(☆本)のデジタル教材を、算数・数学等の授業で活用する。	8月までに校内研修会 保護者満足度 80%以上	保護者満足度 9ポイント増だが70% ▼
⑥ グラウンドが使用できない中、校内・校外の施設の活用を工夫し、事故なく安全に体育活動を推進するとともに、体力の維持・向上に努める。	校外施設の活動を計画 通り実施、事故0	計画通り実施 校内体育で事故あり ▼
⑦ 中学部・高等部の作業学習について、実践を通して「内容」「連続性・系統性」について検討し、改善・充実を図る。	校内研究の成果発表 シラバスの充実	内容検討実施 次年度も継続 ○
⑧ 種々の教育課題について、学習指導に位置付け、実践を共有する。「道徳教育」「キャリア教育」「安全教育」「食育」「性教育」「学校 2020 レガシー」等	実践事例の報告1種以上	道徳教育、性教育、食育等で実践共有 ○

【進路指導】

- ・ 進路に関する情報を、保護者会、便り等を活用し、また個別の進路相談等も実施して保護者に発信したが、まだ保護者には十分届いているとは言えない。
- ・ キャリア教育の視点を保護者に分かりやすく発信する必要がある。
- ・ 高等部卒業時点での進路状況は右図の通りである。

卒業年度	卒業生数	進学	企業	企業就労・進学率%	就労移行支援事業	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護・自立訓練等	(入所施設含む)その他	在宅	福祉就労・その他%
R元	44	0	15	34%	9	0	7	12	0	1	66%
R2	36	1	5	17%	10	1	3	15	0	1	83%
R3	45	2	9	24%	9	0	10	15	0	0	76%
R4	30	0	9	30%	5	0	8	8	0	0	70%
R5	12	0	4	33%	1	0	5	1	1	0	67%

【進路指導】	数値目標	達成状況と評価
① 生徒の多様なニーズに対応できる産業現場等における実習先を確保する。	100%	希望者全員の実習先を確保 ○
② キャリア教育の充実に向けた企業等見学会、研修会、講演会を実施する。	年5回以上	夏季見学会 5回+初任者等見学会を実施 ○
③ 小学部高学年からの職場見学、就労体験を実施する。	小学部高学年:2日以上 中学部・高等部:5日以上	小学部2日、中学部・高等部5日以上実施 ○
④ 希望する進路(高等部3年後期時点)の実現を図る。	100%	その他1名 他は全員実現 ○
⑤ 保護者のニーズに対応した保護者会、説明会、進路懇談会を実施する。キャリア教育、進路指導に関する情報発信をこれまで以上に実施する。	保護者満足度 90%以上	保護者満足度 87% ▼ 進路個別相談は、申し込み多数

【生活指導】

- ・ 安心・安全な学校生活を送るために必要な環境整備を進めたが、転倒や落下等の事故は起きてしまった。日常的な点検だけではなく、教育活動の内容を踏まえて事前の点検が必要であり、今後の教訓とする。
- ・ 防災・安全教育の満足度 95%には達しなかったが、土曜授業参観に行った体験型の防災講演会は、能登

半島地震の後でもあり、参加者が多く、実施内容も評価も高かった。今後も工夫して保護者に伝えていく。

- ・ 環境に不適合を起こすケースについて、スクールソーシャルワーカー等の助言を生かすとともに、関係機関との支援会議等を積極的に実施した。引き続き、チーム学校として対応していく。
- ・ SNS の使い方をめぐって課題があり、今後も続くと思われる。全体に対して、また個別に対応が必要である。

【生活指導】	数値目標	達成状況と評価
① 毎日の朝・帰りの教室等の点検作業確実に行う。	100%	計画通り実施○
② 日常生活の指導、給食指導などを通して、衣服の着脱、排せつ、摂食などのADLの向上を図る。	通年	計画通り実施○
③ 「あいさつ運動」を通して、規律性や社会性を養う。	各学期1回	計画通り実施○
④ 一人通学に向けた取組を全員の個別指導計画に記載し、推進する。公共交通機関等を利用した一人通学への移行を適切に行う。	全員児童・生徒に実施 移行:15ケース以上	移行:18ケース ○
⑤ 大地震・火災・水害等を踏まえた実効性のある避難訓練を実施する。	年間11回以上	計画通り実施○
⑥ 不審者対応訓練、セーフティ教室を実施する。	年各1回	計画通り実施○
⑦ 地域関係機関と連携した宿泊防災訓練を実施する。	中1・高1合同実施	4年ぶりの実施○
⑧ ④～⑦を着実に実施し、防災・安全教育に関する保護者への理解を求める。	保護者満足度 95%以上	保護者満足度93% 講演会等高評価○
⑨ SNS学校ルールの徹底のため家庭と連携し指導を行う。	通年	随時指導したが 課題は多い ▼
⑩ 主治医、放課後等デイサービス、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察、消防等関係機関と円滑な連携体制を強化する。	必要なケースに 確実に対応	支援会議を開催、 随時連携 ◎

【特別活動・その他】

- ・ コロナ禍以降久しぶりの対面の文化祭等で、児童・生徒の成長が随所で見られた。
- ・ 特別支援教育のセンター校として巡回相談や学校公開等を積極的に推進した。
- ・ 自己の定時退庁日の設定などを通して、ライフワークバランスに努めたが、浸透・徹底が十分ではなかった。

【特別活動・その他】	数値目標	
① 自主性を高め、自ら学び行動する力を養うための行事等を計画、実施する。	各学期	計画通り実施 ○
② 自らの役割を明確にし、やり甲斐と責任感を育む係活動等を推進する。	通年	計画通り実施 ○
③ 外部講師、外部専門員等による夏季研修を受講し自己研さんに努める。	年1～2回以上受講	計画通り実施 ○
④ 学校医や学校歯科医、歯科衛生士等の指導・助言を受けて、学校や家庭が連携して、児童・生徒の健康づくりを推進する。	学校保健委員会:年2回、 歯科保健指導:各学部1回	計画通り実施 ○
⑤ 医療的ケア安全委員会を毎月実施し、医療的ケア児の観察、手技確認、指導医との綿密な連携を進め、安全で適切な医療的ケアを推進する。	不測の状況にも冷静に対応 アクシデント0を目指す	インシデントは早急に対応策を実施。 アクシデントは0(ゼロ) ○
⑥ 全教職員の協力の下、高等部生徒の部活動を実施し、参加生徒の人間的な成長を促す。	通年	大会参加、高校との交流等で成果 ◎
⑦ 積極的に教育活動の情報発信を行う。 A すみだだより、学年だより、保健だより、給食だより (各年11回) B 進路だより、研究部だより(3～5回以上)	情報発信に関する保護者の満足度 95%以上	計画通り実施 保護者満足度 98% ◎
⑧ 地域の特別支援教育センター校としての機能を発揮する。 A 地域の保育園・幼稚園、小学校、中学校向けに研修会、巡回相談 B 就学前の幼児及び保護者を対象とした「なかよしひろば」を開催	A:研修会20回以上、 巡回相談150件以上、 B:年4回	A:研修会 28回 巡回相談 345件(高校41) B:4回 ◎
⑨ 地域社会の障害者の生涯学習、余暇活動充実のため公開講座等の学校開放事業を実施し、障害者の支援体制づくりに貢献する。	3講座 12回以上	計画通り実施 ○
⑩ 学校ホームページを充実し、保護者や都民等への情報提供となるように適切な更新、工夫を行う。	更新回数年250回	更新回数 275回 ◎
⑪ 教職員のライフワークバランスに努め、全教職員が健康で充実した職務遂行に当たれるようにする。	マイ定時退庁日、N0会議デー設定月1回	設定したが徹底に至らず。 体調不良者あり▼

IV 学校運営連絡協議会報告

(1) 学校評価から 令和5年度 学校評価アンケートの回答結果と分析について、以下に示す。

資料1 児童・生徒アンケートから

資料2 保護者及び教職員の回答の集計

資料3 保護者回答と教員の意識との比較

令和5年度 学校評価アンケート回答結果

R6.2.1 都立墨田特別支援学校

1 回答率

(1) 保護者アンケート

	小学部			中学部			高等部			全体		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
現員数	114	134	137	59	66	75	89	83	89	262	283	301
回答数	101	119	139	45	57	66	82	68	66	228	244	271
回答率	88.6%	88.8%	101.5%	76.3%	86.4%	88.0%	92.1%	81.9%	74.2%	87.0%	86.2%	90.0%

・令和4年度からマイクロソフト・フォームズによるウェブでの回答

(2) 児童・生徒アンケート

・小学部高学年(57名)、中学部(75名)、高等部(89名)計221名を対象に実施。

・タブレット端末(iPad)を使用し「はい・いいえ」から選択を促した。211名から回答が得られた。

(3) 教員アンケート

・全教員を対象に実施し、保護者の回答傾向と比較した。回答数101

2 回答内容について

(1) 児童・生徒アンケートから

資料1

- ① おおむね楽しく学校に登校し、学習に限らず、友達や先生との会話など学校生活を楽しんでいる様子が読み取れる。
- ② 困っていることは、友達との関わり方のほか、自分自身のことで悩んでいる傾向もある。

* 自由意見などから面接が必要と思われるケースについては、個々に聞き取りを行い、対応した。対人関係の悩み、自分の悩みを聞き取るだけでなく、自己肯定感を育てる活動や働き掛けも必要であると思われた。

(2) 保護者と教職員のアンケート結果から

資料2

資料3

- ① 教育活動・適切な指導に関する項目は9割以上の保護者から肯定的評価を得ているが、「思わない・あまり思わない」という否定的な評価や「分からない」と回答する保護者もいる。学校が児童・生徒にとって安心できる居場所になるよう環境づくりに努めるとともに、人権尊重やいじめ防止、よりよい対人関係と自己肯定感を育む指導について、保護者と連携しながら進める必要がある。

教育課題への対応については、昨年度から肯定的評価が低く、学校経営の重点に上げたところであるが、ICT教育やキャリア教育など、上昇したが7,8割にとどまっている。否定的評価と「分からない」の回答が目立つ。教育課題への対応については、教職員も「そう思う」の回答が少ないので、自信をもって指導できるよう、研修や実践を重ね、保護者にも発信していく必要がある。

今年度は、都教育委員会から「学習者用デジタル教材の開発」で研究指定を受け、教職員の研究授業でも積極的にICTを活用してきているので、こうした実践を更に発信していくこととする。

- ③ 学校の取組や教員の姿勢については、保護者から9割以上の肯定的な評価をいただいているが、今後もこれに甘んじることなく、保護者とのコミュニケーションを図り、保護者との信頼関係に基づいた教育指導、活動ができるよう努めていきたい。

仮設校舎や新校に関する情報発信は、昨年度よりも届いていなかったことを反省し、情報発信に努める。3月下旬には仮設校舎の引き渡し、引っ越しがあるので、4月以降、保護者に参観をいただくとともに、新しい環境で教育内容を充実させていくことを発信していきたい。

- ⑤ 自由筆記でいただいた提言や指摘事項についても、対応可能なものはすぐに対応し、保護者からの信頼を一層得られるよう努めていく。

児童・生徒アンケートの集計 (令和5年度)

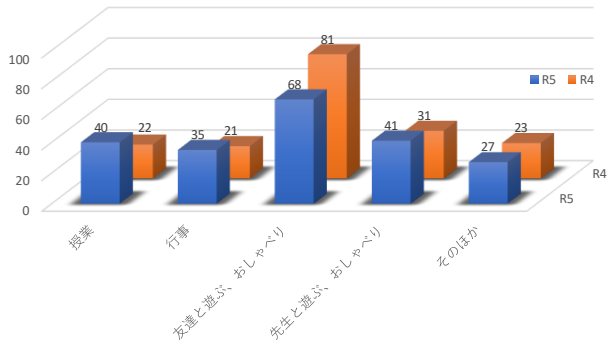
資料1

質問 (一人一台端末で応答)	R4年度			N=178
	はい (ある)	いいえ (ない)	はいの割合 (%)	
1 あなたは、学校が楽しいですか。	205	6	97%	98%
2 先生から苗字にさん付け「〇〇さん」で呼ばれていますか。	196	15	93%	98%
3 あなたは、今年の4月以降、先生にいやなことを言われたり、されたりしたことはありませんか。	5	206	2%	6%
4 あなたは、今年の4月以降、友達に仲間はずれにされたり、いやなことをされたりしたことはありませんか。	11	200	5%	6%
5 あなたは、今、困っていることはありませんか。	15	196	7%	7%
6 いじめられている友達を知っていますか。	6	205	3%	5%

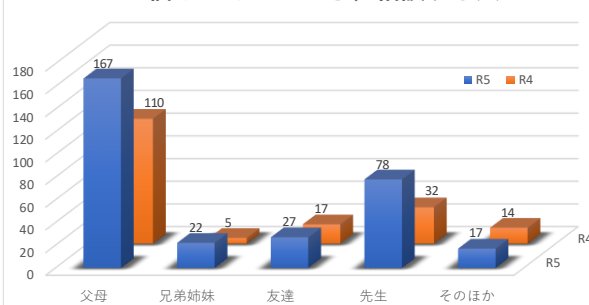
困っていること等の記述から

- 先生に怒られる。イヤーマフを取ろうとする友達
- 泣いたり騒いだりする友達が怖いです。
- 名前でいじられたことです。
- 同じクラスの〇〇さんに困っています。
- 朝、学校に行きたい気持ちになるまで時間が掛かる。
- 家ではご飯の準備が大変。学校では持久走が不安。
- LINEが好きにやれない。
- 授業で途中から参加するとき、入りづらくなるところ。自分を責めてしまうところ。
- 友達や先生に「嫌われたらどうしよう?」「こう思われてしまうかな?」と思い、自分の意見や疑問をすぐ言えない。

どんなことが楽しいですか?



悩みがあったとき、相談する人

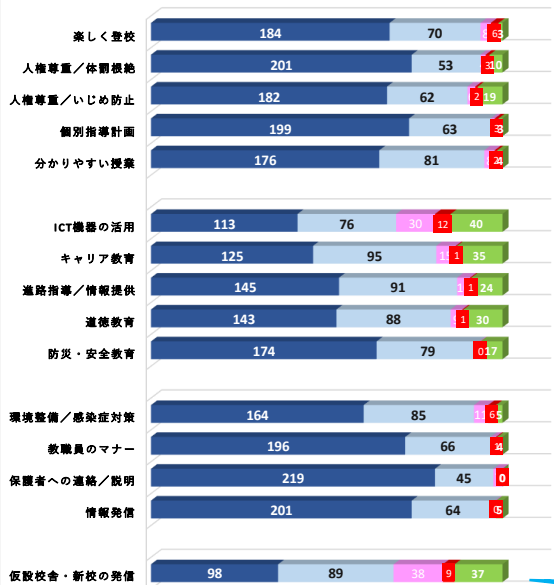


保護者及び教職員の回答の集計 (令和5年度)

資料2

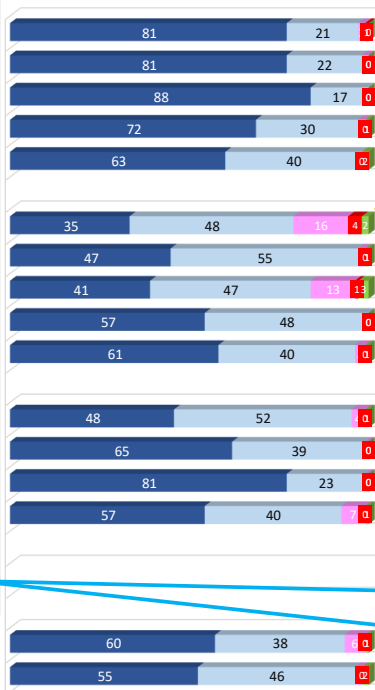
保護者の意見 集計 (271名)

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 分からない



教職員の意識 集計 (105名)

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 分からない



データから読み取れること

9割の保護者には、肯定的な評価をされている。「人権尊重/いじめ防止」の取組は他に比べ「分からない」が多いので、一層取組の充実と発信に努める必要がある。

教育課題の対応は、全体として「分からない」が根強くある。「ICT機器の活用」「キャリア教育」は、昨年度より肯定的な評価は上昇したが十分とは言えない。教員も「そう思う」が「やや思う」を下回っているため、教育課題を意識した活動を一層推進する必要がある。

多くの保護者からは肯定的な評価を昨年度以上にいただいているが、否定的な評価も少なくないことを受け止め、一層の精進に努め、保護者の信頼を得ていく必要がある。

仮設校舎や新校移転に関する情報は、昨年度よりも評価が低下した。教育環境の変化だけでなく、教育内容の改善・充実について、積極的に発信していく。

働き方改革 外部専門員の助言/研究・研修

保護者回答と教職員の意識との比較（令和5年度）

資料3

- 各質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な回答を合算し、回答率を%で示した。
- 保護者の回答が90%を下回るものに▽を、保護者と教職員とのポイント差が10以上の項目に▼を示した。

参考
令和4年度

		質問内容（上段：保護者、回答数244）（下段：教員、回答数101）	肯定的回答	差	参考		
					肯定的回答	差	
教育活動・適切な指導	1	楽しく登校 児童・生徒は学校に楽しく登校している。 あなたは、児童・生徒が楽しく登校できるように、学習環境を整え、コミュニケーションを図っている。	94	-3	93	-7	
			97		100		
	2	人権尊重／体罰根絶 教職員は、児童・生徒の人権を尊重し、体罰、行き過ぎた指導がないように取り組んでいる。 あなたは、児童・生徒の人権を尊重している。（体罰、セクシャルハラスメント、行き過ぎた指導がない、小学部高学年、中学部、高等部は苗字に「さん付け」で呼んでいる。）	94	-4	95	-3	
			98		98		
	3	人権尊重／いじめ防止 教職員は、児童・生徒の人権を尊重し、いじめ防止に向けて、児童・生徒が良好な友達関係を築くための指導に取り組んでいる。 あなたは、児童・生徒の人権を尊重し、いじめ防止に向けて、児童・生徒が良好な友達関係を築くための指導を行っている。	90	-10	92	-8	
			100	▼	100		
	4	個別指導計画 教職員は、個別指導計画に沿った指導を行っている。 あなたは、個別指導計画に沿った指導を行っている。	97	0	94	-3	
			97		97		
	5	分かりやすい授業 教職員は、児童・生徒の個性、特性及び生活年齢を踏まえ、視覚的支援を含めた指導や教材を工夫し、児童・生徒が分かりやすい授業を行っている。 あなたは、児童・生徒の個性、特性及び生活年齢を踏まえ、視覚的支援を含めた指導や教材を工夫し、児童・生徒が分かりやすい授業を行っている。（児童・生徒が意欲的に学ぶことができる授業づくり等）	95	-3	93	-5	
			98		98		
教育課題への対応	6	ICT機器の活用 学校生活の中で、iPadなどのICT機器を使用した授業を行っている。 あなたは、学校生活の中で児童・生徒にiPadなどのICT機器を使用した授業を行っている。	70	-9	△R4 より上昇	61	-21
			79	▽		82	▽▼
	7	キャリア教育 教職員は、児童・生徒の実態に合わせたキャリア教育に関する取り組みを行っている。 あなたは、児童・生徒の実態に合わせたキャリア教育に関する指導を行っている。	81	-16	△R4 より上昇	76	-16
			97	▽▼		92	▽▼
	8	進路指導／情報提供 学校は、キャリア教育・進路指導について必要な情報提供を行っている。（進路だより、進路講演会含む） あなたは、担当する児童・生徒のキャリア教育・進路指導について、保護者に説明できている。	87	3		87	-2
			84	▽		89	▽
	9	道徳教育 学校は、児童・生徒の実態に合わせた道徳教育につながる指導を行っている。（人との関わり、規律ある行動、生命の尊重、社会への奉仕等） あなたは、児童・生徒の実態に合わせた道徳教育に関する指導を行っている。（人との関わり、規律ある行動、生命の尊重、社会への奉仕等）	85	-15		88	-11
			100	▽▼		99	▽▼
	10	防災・安全教育 学校は、児童・生徒の実態に合わせた防災教育、安全教育を行っている。 あなたは、児童・生徒の実態に合わせた防災教育、安全教育を行っている。	93	-3		93	-3
			96			96	
学校の取組・教員の姿勢	11	環境整備／感染症対策 学校は、児童・生徒が安心・安全に学習できるように、教育環境や指導の体制を整えている。（新型コロナウイルス感染症対策を含む） あなたは、危機管理マニュアルを理解し、周囲の教職員と連携し、教育環境や指導の体制を整え適切に行動できている。（新型コロナウイルス感染症対策を含む）	92	-3		91	-7
			95			98	
	12	教職員のマナー 教職員は、ふさわしい言葉遣い、身だしなみ、電話対応を行っている。 あなたは、教職員として、ふさわしい言葉遣い、身だしなみ、電話対応を行っている。	97	-2		93	-7
			99			100	
13	保護者への連絡・説明 教職員は、児童・生徒の指導等について、連絡帳等で連絡し、質問等に対して丁寧に説明をしている。（連絡帳、電話、面接等） あなたは、児童・生徒の指導等について、保護者と連絡を取り合い、情報を共有しながら対応している。（連絡帳、電話、面接等）	97	-2		95	-3	
		99			98		
14	情報発信 教職員は、学校の取り組みについて、保護者や関係諸機関等に必要な情報を提供している。（お知らせ、すみだだより等の学校通信、保護者会での連絡を含む） あなたは、学校及びあなたの取り組みについて、保護者や関係諸機関等の方々に丁寧に説明をしたり、情報発信をしたりしている。（便り、お知らせ等）	98	6		95	-3	
		92			98		
その他	15	仮設校舎・新校 学校は、仮設校舎の建設や墨田地区第二特別支援学校（仮称）新設に向けての進捗状況等を分かりやすく提供している。	69	▽	▼R4 より下降	81	▽
	15	働き方改革 あなたは、組織の一員として、ラインを踏まえた報告、連絡、相談、提言をスムーズに行い、業務改善に取り組むなど、自身の働き方改革に努めている。	93			96	
	16	研究・研修 あなたは、外部専門員の助言等や年次研修、授業研究を通して、研究・研修に努めている。	96			93	
保護者平均			89	-8		88	-8
教員平均			97	▽		96	▽

(2) 学校運営連絡協議会の意見、提言から(抜粋)

① 子供の人権について

【人権尊重】

- ・ 障害者福祉全般に常に人員が不足している。人員の確保とともに、人権意識をどのようにもたせるかが課題である。している。雇用したあとの人権に対する研修がとても重要である。常識と思われていたような基本的なことから細かく丁寧に、研修を充実していくことが大切である。

【子供の考えを引き出すことについて】

- ・ 学校評価アンケートは、高学年からということであったが、思ったことをタイムリーに発言できないという特徴をもつ児童・生徒達なので、低学年から声をあげる練習をしていくことが大切だと思う。保護者から意見を聞くときに、子供が小さいうちから、我が子の意見を聞く練習に取り組み、本人(子供)はどう思っているのかという項目を入れていくのも大切だと思う。

② 保護者、地域への発信の仕方について

【学校の教育に関する理解】

- ・ アンケート結果では、生徒、保護者ともに満足度が比較的に高い。この中で、困っている具体的な意見は貴重で、1つ1つ改善していくことが大切だと思う。
- ・ 本部役員として校長先生を始め、副校長や他の先生方と話をすることができ、学校の情報を直接聞くことができる。キャリア教育では、進路の講演会で話を聞いて、キャリア教育を実感した。年に数回面談でしか直接話ができない、情報を取り入れにくい保護者へどのように情報発信するかが大切だ。

【キャリア教育】

- ・ 進路便りなどいろいろ発信しているが、キャリア教育を理解するところまでたどり着けていない保護者がいるので、評価につながらないのではないかと。学校全体からの発信も大事だが、教職員がキャリア教育のことをもっと知り、保護者と面談や話をしている中で、キャリア教育を話題にあげることが必要だと思う。
- ・ 進路講演会を実施しているので、アーカイブなどで保護者へ発信してもよいのではないかと。

【墨田特別支援学校の存在、取組】

- ・ 墨田特別支援学校の文化祭に参加した。作業販売は、列ができていて、大勢の人が来校していて活気があった。来年度は、地域の人にも校内の様子を分かってもらうよい機会となると思う。
- ・ 団地では、高齢化が進み、単身住まいも増えている。支援学校で、夜に明かりが付いているのを見ることがうれしい。文化祭では、生徒が歌ったり、踊ったりしているのを見ることができた。自治会との交流をもっとしていきたい。
- ・ 学校に明かりが付いていてうれしいという意見は、学校に光があり、地域の安全を保つために必要であり、地域の中で担うべき学校としての役割があることだと思う。
- ・ 通学中の高等部の生徒が挨拶を返してくれたり、会釈してくれたりする。地域の関わりを継続していきたい。近くの学校だが、実際に中に入ってみないと分からない。5年生の見学と直接交流は有意義である。

【仮設校舎／新校】

- ・ 新しい教室と今まで使用していた教室と併用して使う。事故が心配される。教員が、仮校舎についてどういう機能があり、注意する所を共有することが大切。
- ・ 地域や卒業生とのつながりを念頭におきながら、卒業後、交流できる場があるとよい。ICTもコミュニケーションツールとして大切。いつでも困ったら学校とつながれる仕組み作りを考えてくれると良い。

◎ いただいた御意見、御提言を踏まえ、次年度の学校経営に反映させていく。